

生薬混合物の外用による抗肥満作用の検証

The Anti-obesity Effect of Mixed Herbal Medicines as an External Application

○亀岡 郁雄¹⁾, 奥野 純子¹⁾, 井上 有希¹⁾, 番度 行弘²⁾, 三浦 将司²⁾

1) 日華化学株式会社, 2) 福井県済生会病院

The anti-obesity effect of mixed herbal medicines as an external application was studied by using a volunteer staff. It was suggested that the mixed herbal medicine is effective to the size of body perimeter decrease. These data suggested that the mixed herbal medicine is useful to the size of body perimeter decrease partially.

【目的】

肥満は、糖尿病、高脂血症、高血圧症を誘発し、いわゆる生活習慣病の罹患率を引き上げている。近年、これらの疾病予防薬の開発がなされているが、その多くは内用剤である。

そこで、我々は、外用で抗肥満効果を発現しうる薬の開発を目的に研究を進め、昨年度の本大会にて。特定生薬混合物のマウスへの経皮投与によって、血中の糖ならびに中性脂肪が有意に減ずることを発表した。今回は、ボランティアの女性モニターに特定生薬の混合物を経皮投与し、その効果について検証したので、その結果について報告する。

【方法】

本実験では、特定生薬を配合した外用クリームを作成し、そのクリームを病院に勤務するボランティアの女性モニター（看護師17名、事務職8名）に対し使用した。

実験期間は約4週間とし、この期間中は1日1回外用クリームをウエストとヒップに適量を塗布した。体重、ウエストサイズ、ヒップサイズは毎日測定し、試験前後に採血して血糖、中性脂肪(TG)を測定した。さらに、肝障害、血液毒性についても併せて評価した。その中で任意5名に試験前後の腹部をCTスキャンにて脂肪量の測定を行った。また、試験期間中の食事と運動についての指導及び制限は行わなかった。

【結果】

ウエスト周径及びヒップ周径については有意な減少が認められた。体重については、ほぼ変動が見られなかった。血糖、中性脂肪に関して有意差は見られなかった。また、CTスキャン5例中2例に皮下脂肪の減少が認められた。

本試験を通じて、皮膚刺激、肝障害、血液異常などの毒性やそれらの兆候は一例も認めなかった。

【結論】

特定生薬混合物の経皮投与によって、ウエスト及びヒップ周径が有意に減ずることが示された。さらに、体重とウエスト及びヒップ周径の経時挙動も鑑みると、部分痩身にも有効であることを示唆するものである。